

令和5年10月30日

豊田市議会議長 木 本 文 也 様

スポーツを通じたまちの活性化特別委員長
板 垣 清 志



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、豊田市議会委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 派遣期間 令和5年10月24日（火）から同月26日（木）まで
- 2 派遣場所 24日（火）…佐賀県／
及び内容 佐賀県スポーツコミッション
25日（水）…広島県／
スポーツアクティベーションひろしま
26日（木）…一般社団法人ディスカバー東広島／
観光地域づくり法人としての取組・課題等
- 3 派遣委員 委員長 板垣 清志
副委員長 杉浦 健史
委 員 小島 政直 根本 美春 杉本 寛文
岩田 淳 鈴木 孝英 福岡 靖純
安藤 寿昭 鈴木 昌秋 武田 一夫
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行者／岸本 喜文、西村 達哉

視察報告書【1】

委員会名	スポーツを通じたまちの活性化 特別委員会	委員名	板垣 清志
視察日時	令和5年10月24日（火）午後2時00分～午後3時00分		
視察先・概要	佐賀県庁 佐賀県 人口：794,760人（R05.9.30現在） 面積：2,441km ²		
視察内容	スポーツを通じたまちづくり 「佐賀県スポーツコミッション」の事業概要と取組・成果		
選定理由	佐賀県では、スポーツ合宿及びスポーツイベント開催に特化した組織を設置し、合宿練習施設や宿泊施設の紹介や手配、合宿主催者の悩み相談や補助金の申請支援などを積極的に行っている。このようなスポーツイベントのみならず、スポーツ合宿等を生かした地域活性化の取組を視察することで、特別委員会の調査研究に資するものとする。		
豊田市の 現状と課題	ラリージャパンの開催による効果を最大限に発揮することでまちの活性化を図る。また、本市が有する大規模スポーツ施設や資源を生かし、スポーツを通じて多様な交流機会の創出と市内経済の活性化を目指し、情報発信等による機運醸成の方策や、官民連携によるイベントの強化と庁内体制のあり方などについて調査研究を行い、市へ提言する。		
視察概要	1. 組織概要、設置経緯、取組成果 2. スポーツ合宿やスポーツイベントを開催する際の市民への機運醸成、理解促進方法 3. 周知のための情報発信方法における工夫 4. 庁内、外部団体（企業等）との連携体制 5. 今後の展望・取組		
評価とその理由	・佐賀「県」の取組ということで、本来市町村が取り組む内容とは規模感からして違うところであるが、佐賀県スポーツ課江口参事からの説明は大変地道な活動を大切にされており、本市に置き換えて考えても大変参考になる。 ・旧来各部局にまたがっていたスポーツ関連を2012年度に一元化し、2022年度からは「SAGA2024 SSP（佐賀スポーツピラミッド）推進局」に体制強化を図り、同部局内に2013年度に設立した佐賀県スポーツコミッション、SAGAスポーツキャンプネットワーク協議会を置き機能的な取組が出来る組織体制を構築されている点が評価できる。 ・SAGAスポーツキャンプネットワーク協議会については、国内外におけるスポーツ大会に向けたキャンプの誘致を明確な目的として以前からあった組織体制を再構築し、庁内、外部団体との必要な連携をより強化されている点も注目すべき点と感じる。 ・スポーツイベント等開催時において、経済効果などの各種指標だけで図ることなく佐賀県のスポーツ文化の発展を中心として、合宿中公開練		

	習を、関係競技の県内の子ども達が多く来場できる時間に設定したり、県内選手との合同練習を図るなど県内の選手や子ども達のスポーツ力向上に力点を置かれている点は新たな視点として大変参考になった。 ・情報発信については、ホームページ等による通常の情報発信だけでなく、来県された各代表選手によるSNS発信が大きな影響力を持っているという点に着目して、その力（フォロワーが数百万人もいる場合もある。）を利用されている点は高く評価できると考える。
本市に反映 できること	・本市には現在スポーツコミッションは存在せず、佐賀県の実施事例や手法がそのまま本市に当てはまる取組ばかりとはいえないが、評価欄でも記載したがスポーツ合宿誘致において、佐賀県へのメリットを念頭にターゲットを明確にして「戦略的」に行われている点は参考になると考える。 ・上記のとおり、本市にはスポーツコミッションは無いが直近でもWRC、アジア大会などの大規模スポーツイベントが今後も控え、また、本州中央に位置し平地から山地を有する地理的環境、加えて高速道路ICも多く有する良好な交通条件など、スポーツを活かしたまちづくりを進めるのに適した立地である本市でもスポーツコミッションの設置は有効な手段の一つではないかと考えられる。
その他 (意見・課題)	・佐賀県の担当者からは、スポーツに対する「熱い思い」を大変強く感じ、その思いを具体化するために推進する施策には一つ一つ説得力があ

	り熱量を感じた。 ・視察翌日の早朝に、佐賀駅から徒歩 15 分程の位置にある「SAGA サンライズパーク」を訪れ現地を視察した。アリーナや陸上競技場・水泳施設、2 面のサッカー場、16 面のテニスコートなど、佐賀県で予定される 2024 国民スポーツ大会開催を見据えた施設が機能的に集約され、佐賀県のスポーツにかける並々な熱い想いを現地でも感じた。夜明け前にもかかわらず、多くの学生や市民の方々がランニング等に訪れており、施設開館から日数が経っていないにもかかわらず既に佐賀県民にとって重要な場所となっていることを実際に強く感じた。
--	--

視察報告書【2】

委員会名	スポーツを通じたまちの活性化 特別委員会	委員名	板垣 清志
視察日時	令和5年10月25日（水）午後1時30分～午後2時30分		
視察先・概要	広島県庁 広島県 人口：2,741,976人（R05.9.30現在） 面積：8,480 km ²		
視察内容	スポーツを通じたまちづくり 「スポーツアクティベーションひろしま」の事業概要と取組・成果		
選定理由	広島県では、スポーツを活用した地域の活性化を目指して、令和2年に本組織を立ち上げた。スポーツだけで活性化を狙うのではなく、県内の景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせて戦略的に活動を行っている。スポーツイベントの開催における官民連携体制、地域資源の活用による市民の機運醸成の戦略的方策等を視察することで、特別委員会の調査研究に資するものとする。		
豊田市の 現状と課題	ラリージャパンの開催による効果を最大限に発揮することでまちの活性化を図る。また、本市が有する大規模スポーツ施設や資源を生かし、スポーツを通じて多様な交流機会の創出と市内経済の活性化を目指し、情報発信等による機運醸成の方策や、官民連携によるイベントの強化と庁内体制のあり方などについて調査研究を行い、市へ提言する。		
視察概要	1. 組織概要、設置経緯 取組・成果 課題 2. 地域資源を有効に活用するための手法（工夫） 3. 庁内や外部団体（企業等）との連携体制 4. 地域住民への機運醸成や理解促進方法 5. 今後の展開、取組		
評価とその 理由	・ 前日視察の佐賀県と同じくスポーツコミッションに関する項目であったが、その内容は大きく異なっており、組織概要や目的などが変わってくることを改めて確認できた。 ・ 組織については、県外からマネジメントマーケティングに長けた民間人材を登用し事業責任者とするなど民間目線での取組を大いに取り入れている点は注目すべきと考える。 ・ また、プロ野球チームの広島カープなど広島県内にあるスポーツチームと連携し、広島横断型スポーツ応援プロジェクトを実施し、県内各市町村と協働し県内に存在するスポーツ資源を「地域が誇れるスポーツ」にするため地域協働で活性化を図る「わがまちスポーツ」制度を展開するなどプロスポーツ、地域スポーツそれぞれに着目した事業展開も評価できる。		

	 
本市に反映 できること	・本市に反映できる点としては、広島県同様本市においても名古屋グランパス等のプロスポーツが既に多く存在する点は大きな強みであり、連携しつつ活用することができると考える。広島県においては、連携応援プロジェクト「TEAM WISH」発足時には「広島カープが参加する」という事が大きな決め手となったとのことであり、本市でも実現においては名古屋グランパス、ヴェルブリッツなどの協力が必須になると思われる。 ・わがまちスポーツについては、スポーツ資源を活用した取組として各街が持つ特徴を活かし新たなブランドとして展開する点は、山村地域から平野部まで広く特徴的な地域性を持つ本市でも反映できる点と考える。但し広島は「県」の取組支援として市町村からのアイデアを受ける形態となっていることについては組織や規模感などから、本市では市主導で行うなど参考にする際は形を変えることなど望ましいのではと感じる。
その他 (意見・課題 など)	・前日の佐賀県と比して、人口も多く規模の大きい広島県での取組は、スポーツ振興についても県は市町村と連携し補助やサポート体制を整えてゆく役割という感を受けた。各市町村の取組もお聞きできたが、できればその中の三次市のような実際の事例を直接視察することも必要となってくるのではないかと思慮する。  

視察報告書【3】

委員会名	スポーツを通じたまちの活性化 特別委員会	委員名	板垣 清志
視察日時	令和5年10月26日(木)午前10時30分～午前11時30分		
視察先・概要	一般社団法人ディスカバー東広島 東広島市 人口：190,386人 (R05.9.30現在) 面積：635.2km ²		
視察内容	ツーリズムにつなげる魅力発信等について 観光地域づくり法人としての取組・課題等		
選定理由	本組織は、2020年6月に設立した観光地域づくり法人（DMO）であり、東広島市の地域資源を通じて市内外へ同市の魅力を発信している。同市は観光地としての取組に課題があると認識しており、市内事業者と連携をしながら東広島市のファンを増やすため、さまざまな取組を行っている。本市の観光組織、ツーリズムとよたの活動や役割と比較しながら、情報発信手法や市民の機運醸成方策等を視察することで、特別委員会の調査研究に資するものとする。		
豊田市の 現状と課題	ラリージャパンの開催による効果を最大限に発揮することでまちの活性化を図る。また、本市が有する大規模スポーツ施設や資源を生かし、スポーツを通じて多様な交流機会の創出と市内経済の活性化を目指し、情報発信等による機運醸成の方策や、官民連携によるイベントの強化と庁内体制のあり方などについて調査研究を行い、市へ提言する。		
視察概要	1. 組織概要、設置経緯、取組 2. DMOの申請に至るまでの経緯、登録後の状況と課題 3. 事業向けサイトの立ち上げ経緯、市民来訪者への情報発信の手法、成果（市との連携） 4. 地域資源を有効に活用するための手法や工夫 5. 地域住民への機運醸成や理解促進方法 6. 調査分析事業の概要、分析結果の活用状況 7. 今後の展望、取組		
評価とその理由	・事業目的として、地域・大学・民間・行政一体を掲げ、大学が多いという東広島市が持つ特性を十分に生かし、且つそこから若者志向も捉え展開するという取組に今の時代・トレンドを的確にとらえた戦略を明確にしている点が参考になった。一方で、アナログ世代に対する情報発信も疎かにせず、情報誌や地図と言った紙媒体も併用しデジタルとアナログを繋ぐQRコードなども活用して、その利用度合いを図るといった試みも行っている点などは評価できる点と感じる。 ・インナープロモーションを積極的に行うことで地域事業者の意欲向上を図るとともに、市内住民のマイクロツーリズムを進めるなど、市内からも消費喚起を行う手法を進めている点も評価できる。 ・HP等のオウンドメディアだけでなくSNSなどユーザー発信である		

	アールドメディアも戦略に取り入れている点は、1 日目の佐賀県のスポーツコミッションと似た視点を持ち尚且つ戦略として位置付けている所は一步進んだ取組と感じた次第である。 ・市内に大学などが多く、加えて海外留学生が多いことに着目しV R F（知人・家族訪問）を喚起し東広島市内への来訪を促進するという狙い・取組も参考にすべき点と感じた。
本市に反映 できること	・視察説明をお聞きすると東広島市と本市は、海の有無こそあるものの、平地から山間地まで有しており、高速 I C が多い、車での来訪者・生活が中心、県庁所在地広島市から 40 分程度、更にはゴルフ場が多いなど、本市と類似した点が非常に多いと感じた。その中で地域が持つ強みを生かしていく考えは本市においても必要であると考えます。 ・上記のように S N S などのメディアについて、同法人の代表を始め若い人材が携わり、事業運営することで、より効果的な発信が可能となっている点は本市でも取り入れることが必要であると考えます。 ・同法人スタッフの経歴をお聞きしたところ、産業経済方面の人材が驚くほど少なくメディア、「食」といった各分野を専門としている人材で構成されていると伺った。DMO が旅行、ツーリズムだけの視点で進めず多方面の人材で運営することでも十分魅力的な取組が出来る点も参考にできることと考える。
その他 (意見・課題 など)	